

# 令和7年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表 I

重点目標	【1】学力の向上を目指した授業改善と主体的に学ぶ生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況・評価結果	○成果や●課題、□今後の方針 等	評価
<p>&lt;行動計画&gt; (1)教職員の授業改善活動による「力のつく授業」の実践</p> <p>&lt;目標値&gt; ・「授業理解」へのアンケート 教職員、保護者、生徒 80% 教職員研修への満足度アンケート 85% ・校内授業研究年間1回 ・授業相互見学の実施</p>	<p>○「授業を理解していますか」 【肯定的意見4の割合】 生徒37% 保護者16% 教職員 3% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒88% 保護者59% 教職員82% 生徒【1年84% 2年88% 3年91%】 保護者【1年52% 2年60% 3年69%】</p> <p>生徒【88% (R4年) 88% (R5年) 90% (R6年)】 保護者【64% (R4年) 68% (R5年) 69% (R6年)】 教職員【83% (R4年) 98% (R5年) 94% (R6年)】</p> <p>・教職員研修への満足度 97% (1月研修アンケート) ・校内授業研究年間 現在1回 ・授業相互見学（模擬授業）の実施 随時</p>	<p>○生徒の肯定的意見3+4の割合が88%と非常に高く、多くの生徒が授業を理解していると感じている。学年が上がるごとに理解度が向上しており、学習の積み重ねが成果に結びついているとされる。 ●保護者の肯定的意見3+4の割合は59%と、生徒や教職員に比べて低い。特に「強く肯定（4）」の割合が16%と低く、保護者の不安や授業内容への理解不足が考えられる。また、教職員の「肯定的意見4」も3%と非常に低く、授業の質や生徒の理解に対して課題意識を持っていることがわかる。 ●全国学力学習状況調査、みえスタディーチェックとともに、全国を下回る結果であった。 □タブレット端末を活用し、キュビナや各教科の課題等、家庭学習の充実に努める。 □生徒のニーズにあった授業改善を進める。 □全学年で授業規律を整える。</p>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (2)学校のICT化（一人一台端末の有効的な活用）と学習スタイルの共有</p> <p>&lt;目標値&gt; ・タブレット活用の促進、「書く」活動の充実に対する教職員アンケート 90% ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着と「学び合い」の学習スタイルの充実に対するアンケート 90%</p>	<p>・タブレット端末毎日持ち帰り ・「書く」活動の充実に対する教職員評価 97% (1月研修アンケ) ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着に対する教職員評価 94% (1月研修アンケ) ・「学び合い」の学習スタイルの充実に対する教職員評価 97% (1月研修アンケ)</p>	<p>○毎日のタブレット端末の持ち帰りも定着し、キュビナや各教科の課題等、家庭学習の充実に努めた。 ○「めあて」「ふりかえり」を行う授業スタイルを継続できた。 ○話し合いのために学習形態の工夫（ペアワークやグループワーク）、発問の工夫について研修を深めることができた。 ●学習規律の基盤がない状態では話し合い活動は難しい。 ●デジタル教科書の活用が進んでいない。 □家庭学習、評価方法を含む学習スタイルの見直しを図る。</p>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (3)読書習慣の定着</p> <p>&lt;目標値&gt; ・短学活での読書活動の充実（生徒アンケート評価90%） ・生徒一人当たりの年間読書冊数の目標値20冊 ・朝の図書館デーの継続</p>	<p>・朝の読書活動において、毎日1つの学級が図書館で実施 ・生徒の年間読書冊数（12月末現在） 7,863冊 7,989冊（R4年）、9,599冊（R5年）、8,998冊（R6年） ・一人当たり年間冊数（12月末現在） 12.9冊 13.68冊（R4年）、15.66冊（R5年）、15.07冊（R6年） ・国語科、特別支援学級等で図書館を利用した学習の実施 ・図書館ADの訪問による学習支援 学期に1回開催</p> <p>○「朝の読書、学習に時間通りに真剣に取り組んでいますか」 【肯定的意見4の割合】 生徒 58% 保護者 14% 教職員 31% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 93% 保護者 43% 教職員 92% 生徒【1年89%、2年96% 3年93%】</p> <p>生徒【93% (R4年)、93% (R5年)、90% (R6年)】</p>	<p>○朝の図書館デーの取組を継続して行い、本に親しむ時間の確保に取り組んだ。 ○今年度も中庭図書館イベントを実施し、本を読んだり本について語り合う姿が見られた。 ○学校司書を中心として図書館環境は整備されているため、日常的に図書館を訪れる生徒は多くなりつつある。 ●図書館ADの派遣回数が少ない。（学期に1回） □今後も望ましい読書習慣を定着させていく。</p>	A
<p>&lt;行動計画&gt; (4)学習習慣の定着</p> <p>&lt;目標値&gt; ・「家庭学習の手引き」と「自習学習ノート」を活用（家庭学習に対するアンケート達成率 75%） ・短学活での学習活動の充実（生徒アンケート評価90%） ・毎日のタブレット持ち帰り</p>	<p>・タブレット端末持ち帰り毎日実施</p> <p>○「家庭で毎日勉強していますか」 【肯定的意見4の割合】 生徒 25% 保護者 20% 教職員 3% 【肯定的意見3.4の割合】 生徒 59% 保護者 41% 教職員 28% 生徒【1年 52% 2年 53% 3年 72%】 保護者【1年 34% 2年 32% 3年 60%】</p> <p>生徒 63% (R4年) 65% (R5年) 65% (R6年) 保護者 56% (R4年) 47% (R5年) 50% (R6年)</p>	<p>○ワークカレンダーの活用により、計画的に学習に取り組めた。 ○タブレット端末の持ち帰りも定着し、「キュビナ」や各教科の課題等に活用することができた。 ○中間テストを再開し、集中して学習に取り組む期間が明確化された。 ●家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が低下。生徒と保護者の認識に差がみられる。 □家庭学習のモデルや時間の使い方を示し、質の向上を図る。 □学習の手引きの見直し、周知、活用 □スタディーウィークの取組内容を充実させていく。</p>	B

# 令和7年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅱ

重点目標	【2】豊かな心を持ち、命を大切に作る生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	○成果や●課題、□今後の方針 等	評価
<p>&lt;行動計画&gt; (1)「人権」「道徳」「いのち」を大切にした教育の推進</p> <p>&lt;目標値&gt; ・人権教育推進委員会（週1回開催）、校区人権ネットワーク（年間3回開催）（人権教育への取組評価保護者・教職員80%） ・「いのちの日」の取組等による自他の命を大切に作る教育の推進「いのちの日」講演会 年間1回。（人権学習への取組評価生徒90%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会を週時程に入れ定例化（週1回）</li> <li>・各学年別に人権学習計画を検討し、委員会で系統性を検討</li> <li>○「人権学習や講演会に真剣に取り組んだか」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 61% 保護者 19% 教職員 49%</li> <li>【肯定的意見3+4の割合】 生徒 96% 保護者 68% 教職員 92%</li> <li>生徒 【95%（R4年） 97%（R5年） 95%（R6年）】</li> <li>保護者 【66%（R4年） 69%（R5年） 71%（R6年）】</li> <li>教職員 【89%（R4年） 93%（R5年） 91%（R6年）】</li> <li>・いのちの日講演会（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育9か年カリキュラムに基づき、各学年の人権学習を行った。○校区人権フォーラムでは、「ヒューマンライツ」のメンバーが参加し小学生と交流し学習を深めることができた。</li> <li>○学年別人権フォーラムを行い、充実した話し合いができた。</li> <li>○人権学習の公開授業を行い、多くの保護者にも参観いただけた。</li> <li>●人権学習を自分のこととして捉えることができていない生徒、日常生活に結び付けられないこともあるため、今後も教師自身がアンテナ高く、人権意識、知識を高めていく必要がある。</li> <li>□校内の活動のほか、三中交流会、ヒューマンフェスタ、生徒会研修会などの行事、また多くの作文応募などで幅広く活躍する生徒の姿があった。またこれらの教育活動が保護者に伝わるよう情報発信していく。</li> <li>□SNSの使い方について学ぶ機会を次年度も設定し、学習を継続する。</li> </ul>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (2)生徒の居場所づくり・きずなづくりを意識した仲間づくり</p> <p>&lt;目標値&gt; ・QUアンケート分析（年間2回） ・仲間づくりアンケート（各学期） ・人権アンケート（年間1回）（生徒理解に関するアンケート90%） ・教育相談活動の充実（いじめのない学級づくりへのアンケート評価90%） ・学校風土調査の実施</p>	<p>アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校生活を楽しく送っていますか」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 76% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 97%</li> <li>生徒 【94%（R4年） 96%（R5年） 97%（R6年）】</li> <li>○「先生に気軽に相談できる」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 47% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 87%</li> <li>生徒 【82%（R4年） 84%（R5年） 86%（R6年）】</li> <li>○「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 66% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 96%</li> <li>生徒 【94%（R4年） 96%（R5年） 97%（R6年）】</li> <li>○「先生は生徒のことをよく理解している」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 57% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 95%</li> <li>生徒 【93%（R4年） 92%（R5年） 94%（R6年）】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活を楽しく送っている生徒の肯定的意見は97%と高く、いじめのない学級づくりに努めている成果といえる。</li> <li>○生徒と教職員の信頼関係も良好である。</li> <li>○学級づくりレポートにより学級集団や視点生徒の変容について研修を深めた。</li> <li>●「先生に気軽に相談できる」割合が肯定的意見（3+4）は87%と高いものの、4の割合は47%にとどまっており、「先生は生徒のことをよく理解している」の項目も肯定的意見4が57%にとどまっているため、教育相談の方法や日常のかかわり方に工夫が必要。</li> <li>□教育相談の実施方法について工夫、改善に取り組み、生徒の変化を教職員全体で見守り体制づくりに取り組む。</li> <li>□QUを廃止し、別の検証方法を探っていく。</li> </ul>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (3)生き方を学ぶ教育活動の推進</p> <p>&lt;目標値&gt; ・進路、キャリア、多文化共生、防災、性等の生き方につながる教育活動の実践（ゲストティーチャー年5回以上）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年 ・交通安全教室（5月） ・歯科講演会（6月）</li> <li>・スマホ教室（6月） ・薬物乱用防止教室（7月）</li> <li>・環境学習（11月） ・森と木材のふれあい事業（11月）</li> <li>2年 ・マナー講座（6月） ・竹あかり（5月）</li> <li>・救急救命講座（10月）</li> <li>3年 ・金融授業（9月） ・ふれあい天文学（12月）</li> <li>・主権者教育（5月） ・保育体験（10月）</li> <li>・中学生議会（8月）</li> <li>全学年 ・ダイヤモンドタクさんのマジックショー&amp;講演会（10月）</li> <li>・スノーボーダー宮村さん講演会（10月）</li> <li>・いのちの日講演会（11月） ・三送会（2月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部から講師を招いた講演会を各学年の実状に合わせて効果的に実施することができた。</li> <li>○卒業生の宮村さんや亀山市出身のダイヤモンドタクさん、中川桃子さんにお話をいただき、生き方や将来について講演をいただいた。今後も生徒の生き方、考え方を深められるような講演会や学習を継続していく。</li> <li>●講演会の回数や実施時期、対象学年について年度初めに検討が必要。</li> <li>●学校主催ではない各種事業、授業依頼が年度途中に入ることがあった。</li> <li>□年間計画内に位置づけられるよう、各担当や外部との調整を行う。</li> </ul>	A
<p>&lt;行動計画&gt; (4)いじめ防止に向けた家庭との連携と校内での早期発見、早期対応と継続的な指導の徹底</p> <p>&lt;目標値&gt; ・いじめアンケート年間3回 ・教育相談活動の充実（年間3回+α） ・いじめへの取組に関するアンケート評価90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化</li> <li>・いじめアンケート3回実施、生活アンケート3回実施</li> <li>・教育相談期間3回実施</li> <li>○「学校生活を楽しく送っていますか」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 76% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 97%</li> <li>生徒 【94%（R4年） 96%（R5年） 97%（R6年）】</li> <li>○「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」</li> <li>【肯定的意見4の割合】 生徒 66% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 96%</li> <li>生徒 【94%（R4年） 96%（R5年） 97%（R6年）】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活を楽しく送っている生徒の肯定的意見4は76%、3+4も97%と充実感を持っている。</li> <li>○いじめアンケートや生活アンケート、教育相談など生徒理解に努め、いじめの早期発見、未然防止に取り組めた。</li> <li>●アンケートを行ったあとの生徒へのフィードバックの工夫が必要。</li> <li>●数値上の安心感が高いが、日常の中での小さな不安やQUから見えてきた少数の困り感を持っている生徒への具体的な支援が必要。</li> <li>□今後もしじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組む。</li> <li>□QU以外での生徒や学級の状態を把握するツールや方法を探っていく。</li> </ul>	B

# 令和7年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅲ

重点目標	【3】生徒の自治的活動の推進と地域、保護者との連携	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
<p>&lt;行動計画&gt; (1) 生徒が主体となる生徒会活動・学年評議会活動・学級活動・部活動の充実</p> <p>&lt;目標値&gt; ・生徒、保護者、教職員「生徒会活動の充実」「部活動の充実」アンケート評価90% ・生徒会、学年評議会等が主体となる学校行事の企画・運営 ・部活動ガイドラインを遵守した部活動運営</p>	<p>○「生徒会活動、委員会活動は充実していますか」 【肯定的意見4の割合】生徒 58%【肯定的意見3+4の割合】生徒 95% 生徒【96% (R4年)、95% (R5年)、95% (R6年)】</p> <p>○「校内美化に取り組んでいますか」 【肯定的意見4の割合】生徒 53%【肯定的意見3+4の割合】生徒 96% 生徒【95% (R4年)、96% (R5年)、96% (R6年)】</p>	<p>○「生徒会活動、委員会活動の充実」について肯定的意見3+4が95%と高く、過去3年間も96% → 95% → 95%と安定して高評価である。肯定的意見4も58%と半数を超えており、多くの生徒が活動にやりがいを感じている。</p> <p>○清掃日を火、金曜日の2回、他の日を簡易清掃に変更し、意識向上を図った。</p> <p>○部活動ガイドラインを遵守した部活動運営ができた。</p> <p>○パワーナップタイムや募金活動等、委員会での主体的な活動がみられた。</p> <p>●掃除場所の分担、作業内容、担当教員の配置など見直しが必要。</p> <p>●簡易清掃の手順、方法については再度共通理解が必要。</p> <p>●部活動については満足度が低下した。</p> <p>□学校行事等において、委員会や生徒会の積極的な参画を促す。</p> <p>□掃除場所、内容の見直しを行う。</p>	A
<p>&lt;行動計画&gt; (2) 学校運営協議会を核とした学校・保護者・地域が一体となった教育活動を推進</p> <p>&lt;目標値&gt; ・年間4回以上の学校運営協議会の開催と活動方針の協議及び実践 ・PTAとの連携による教育活動 (家庭学習、スマホ・ゲーム視聴時間等の改善活動) ・学校関係者評価の実施と改善活動（公開）</p>	<p>・学校運営協議会4回実施</p> <p>①R7. 4. 28 経営方針・予算等の承認 ②R7. 7. 1 授業参観・意見交流 ③R7. 11. 4 学校の取組、生徒との懇談 ④R8. 2. 19 学校評価、次年度の経営方針</p>	<p>○年間4回の学校運営協議会を通じて、教育目標や課題を共有する機会を確保し、連携体制の強化を図った。</p> <p>○生徒会役員との懇談において、パワーナップタイムや地域清掃活動についての意見交換やアドバイスをいただくことができた。</p> <p>●生徒会との懇談は有意義であったが、継続的な対話の場として定着させる仕組みが必要。</p>	A
<p>&lt;行動計画&gt; (3) 生徒の地域活動参加による社会貢献・ボランティア活動</p> <p>&lt;目標値&gt; ・地域行事、ボランティア活動への積極的参加 (生徒アンケート評価70%)</p>	<p>○「福祉活動、ボランティア活動に積極的に参加していますか」 【肯定的意見4の割合】生徒 27%【肯定的意見3+4の割合】生徒 59% 生徒【56% (R4年) 59% (R5年) 63% (R6年)】</p> <p>○「積極的に地域行事に参加していますか」 【肯定的意見4の割合】生徒 31% 保護者 16% 【肯定的意見3+4の割合】生徒 66% 保護者 45% 生徒【68% (R4年) 71% (R5年) 71% (R6年)】 保護者【39% (R4年) 42% (R5年) 49% (R6年)】</p>	<p>○赤い羽根共同募金や福祉体験は貴重な学びの機会となり、地域とのつながりを実感する場となった。</p> <p>○生徒会本部による学校周辺の清掃活動により地域貢献意識が育まれた。</p> <p>○姉妹校交流で高梁中学校を迎え、有意義な交流会となった。</p> <p>●地域行事への参加について、保護者や地域が生徒に期待する参加の姿勢や頻度と生徒の意識とに差がある。</p> <p>□地域行事や福祉体験活動についての意義や成果を発信し、取り組みの活性化につなげる。</p> <p>□来年度は高梁市を訪れる年のため、事前準備、事前交流を進める。</p>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (4) 学校による教育活動の情報発信</p> <p>&lt;目標値&gt; ・学校だより発行数20回以上 ・ホームページの随時更新 ・保護者アンケート評価85%</p>	<p>○「学校の様子をたよりなどで積極的に知らせていますか」 【肯定的意見4の割合】生徒61% 保護者40% 【肯定的意見3+4の割合】生徒96% 保護者85%  生徒【94% (R4年)、95% (R5年)、96% (R6年)】 保護者【86% (R4年)、84% (R5年)、76% (R6年)】</p>	<p>○日々の生徒の活動や様子の紹介や学力調査の結果の公表等、学校だよりにより定期的に発信した。</p> <p>○つながる連絡システムを活用して発信することで、紙やロイロノートでの配信時の課題が改善された。</p> <p>●個人情報や盗撮防止等の観点から、写真の掲載等々が困難になってきた。</p> <p>□地域や保護者に学校の様子を知ってもらうため、次年度においてもさらに積極的な更新を心がけ、情報発信に努めていく。</p>	B

# 令和7年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表IV

重点目標	【4】個々を大切にしたい誰一人取り残さない教育の推進	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	○成果や●課題、□今後の方針 等	評価
<p>&lt;行動計画&gt; (1) 魅力ある学校づくり・レジリエンス教育の推進</p> <p>&lt;目標値&gt; ・魅力ある学校づくりアンケート (学校生活の楽しさ・みんなで活動する楽しさ90%)</p>	<p>○「学校生活を楽しく送っていますか」 【肯定的意見4の割合】 生徒 76% 【肯定的意見3+4の割合】 生徒 97% 生 徒【 94% (R4年)、96% (R5年)、97% (R6年) 】</p>	<p>○特別支援C0や不登校支援C0、生徒指導主事を中心に外部専門機関と連携、情報共有し、対応することができている。 ●SNSや生活面での生徒指導課題が依然として顕在化している。不登校気味の生徒や家庭への支援を行いつつ「魅力ある学校づくり」に一層取り組む必要がある。 □今後も教職員の人権意識向上を図り、小さな変化、差別やいじめを見逃さない学校風土の醸成に努める。</p>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (2) 生徒支援体制の充実</p> <p>&lt;目標値&gt; ・生徒指導委員会、特別支援委員会の週1回開催による情報共有と支援体制の確立</p>	<p>・特別支援C0を核とした校内体制の確立 ・特別支援教育推進委員会を週時程に入れ、定例化（週1回） ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化</p>	<p>○定例会議の実施により、個々の生徒の課題や学年・クラスごとの課題を教職員間で共有し、共通理解を持って対応する体制が整った。状況確認や指導方針、支援内容の確認をスピーディーに行うことができた。 ○校内教育支援センターの役割も定着し教室に入りづらい生徒の居場所となっている。 ●不登校生徒の支援、学習保障、評価の方法等、個々のケースの検討、取り組みの時間を十分に取れなかった。 □今後もC0や指導員との報連相を徹底していく。</p>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (3) 不登校・別室登校生徒へのきめ細やかな対応</p> <p>&lt;目標値&gt; ・新規不登校数の削減（年間10人以下） ・オンライン授業等による不登校生徒の学習支援と新たな居場所づくり ・別室登校生徒の学習支援・適応指導教室、子ども支援室等との連携（つながりを持たない家庭ゼロ）</p>	<p>・不登校支援C0を核とした校内体制の確立 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化 ・長期欠席者数（30日以上） 1年生 11名、2年生 18名、3年生 21名 ・新規不登校生徒数 16名 ・校内教育支援センターの延べ利用回数（12月末現在） 1年生 359回、 2年生 249回、 3年生 305回</p>	<p>○不登校支援C0を中心とした校内支援体制を確立し、個別支援の質と連携体制の強化を図った。 ○学年主任と学年支援担当を兼務することで、担任、生徒指導担当、支援担当との連携を密にすることができた。 ○校内教育支援センターの活用が進み、学年を問わず支援の場として機能している。 ●長期欠席者は依然として高く、継続的な支援の必要性がある。 □個別の支援計画の見直しを定期的に行い、継続的な支援を行う。</p>	B
<p>&lt;行動計画&gt; (4) 教育と福祉の連携、家庭支援のための小中連携の促進</p> <p>&lt;目標値&gt; ・「つながるシート」を活用した子ども支援グループ、地域福祉課、社会福祉協議会等との連携（随時） ・子どもの育ちの連続性を意識した学校間連携（小中間・中高間）キャリアパスポートの活用 小中連絡会の開催（年2回）、児童生徒情報交換会（小中間1回、中高間1回）</p>	<p>・特別支援教育C0を核とした校内体制の確立 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化</p>	<p>○つながるシートを活用し、生徒・保護者の生活状況を福祉機関と共有し、就学支援や生活困窮者自立支援法に基づく学習支援の活用など、福祉関係機関と連携した支援を行った。 ●進路を見据えて早い段階から、家庭・福祉部局との連携が必要となる。</p>	B

# 令和7年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表V

重点目標	【5】チーム亀中の実践（教職員のための職場環境整備と学校経営への参画）	学校自己評価：B
〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分		
行動計画及び目標値	達成状況	○成果や●課題、□今後の方針 等
<行動計画> (1)働きがいがあり、健康で明るい職場づくり	○勤務における満足度は向上しましたか。 【肯定的意見4の割合】 31% 【肯定的意見3+4の割合】 79% 教職員【54%（R4年）、78%（R5年）、60%（R6年）】 ○校内研修満足度 97% 教職員【100%（R4年）、97%（R5年）、90%（R6年）】 ・健康診断の事後対応の徹底 校長による面談・指導 100%	○勤務における満足度は向上がみられ、教職員の働きやすさに対する一定の改善がみられた。 ●教職員の満足度の肯定的意見4の割合は31%にとどまっている点について、要因や課題と改善点を検討していく必要がある。 □健康面のフォロー体制は整っているが、日常的なストレスケアやメンタルヘルス支援の充実も今後検討していく。
<目標値> ・教職員満足度調査75% ・健康診断の事後対応の徹底 （要検査・治療等の確実な実施） ・ストレスチェックによる総合健康リスク及び量・コントロールの項目全国平均以下		B
<行動計画> (2)働き方改革と総勤務時間の縮減	・部活動休養日の達成率 100% ・定時退校日達成率 92% ・月80h以上の職員（12月末現在）0人 0人（R5年）、0人（R6年） ・月45h以上の職員（12月末現在）58人 16人（R5年）、44人（R6年） ・時間外労働月平均時間 29.6 ・衛生推進委員会（12月末現在）20回	○毎週水曜日の定時退校日に加え、市内統一で設定されている定時退校日も突発的な生徒指導にかかる家庭訪問等でやむを得ない場合を除き、おおむね達成することができた。 ○時間外勤務が80hを超える状況はなく、確実に改善が図られている。 ●不登校生徒への対応や生徒指導事案にかかる保護者対応、家庭訪問等が夜間になることが避けられない。 □今後も個々の勤務状況の把握にとどまることなく、校務改善、働き方改革及び業務の精選に取り組んでいく。 □部活動の地域展開を視野に入れつつ、業務量管理、健康確保措置に向けた改善に取り組んでいく。
<目標値> ・部活動休養日の達成率100% ・定時退校日の達成率80% ・時間外勤務時間80時間以上の職員数0人 ・時間外勤務時間45時間以上の職員数のべ0人以下 ・時間外労働月平均時間30時間以下（三重県平均）		B
<行動計画> (3)教職員研修の充実と同僚性の向上	○校内研修満足度 97% 教職員【100%（R4年） 97%（R5年） 90%（R6年）】 （1月研修アンケート）	○道徳の授業を中心に、話し合いの充実を目指して研修を深めた。 ○小グループで交流を重ね、他教科の取り組みや共通の課題について意見交流することができた。 ●相互参観の時間の確保が難しかった。
<目標値> ・校内研修への満足度90% ・OJTへの満足度80%		B
<行動計画> (4)教職員一人ひとりの学校経営への参画	・コンプライアンス研修実施 2回実施 ・職員過失による交通事故 0件	○今年度もライフ・ワークバランスを意識し、定時退校日や長期休業中の学校閉校日の設定、学年や分掌に係る会議を時間割内に設定するなど放課後の時間を確保するなど業務改善に取り組んだ。 ○産前産後や男性育休、家族介護休暇等取得しやすい職場環境づくりが進んだ。 ○交通事故0、勤務規律の確保についての研修を適宜実施し、意識向上に努めた。職員の交通事故については今年度は1件（当方に過失なし） □今後も県や市からの通知等を活用し、意識向上と勤務規律の遵守を徹底していく。 □盗撮事案や教職員の不適切な指導など全国で発生している課題を自分事として学校運営の中で防止に取り組んでいく。
<目標値> ・ワークライフバランスのための業務改善の推進 ・計画性のある適切な予算執行 ・教育公務員としてのコンプライアンスの徹底		A

## < 学校関係者評価（学校関係者評価委員会：学校運営協議会） >

学校関係者評価委員会である第4回学校運営協議会で学校自己評価を提示し、学校関係者評価を行った。学校自己評価については概ね適正な評価であると承認を得た。「令和7年度亀山中学校具体的行動計画・学校自己評価表」には次年度の課題や改善策を加えたが、その改善策についても概ね適正であると承認を得ることができた。また、次年度の学校教育ビジョンについても検討をいただき、2月の段階ではまだ仮承認ではあるが、4月の第1回学校運営協議会までは提案の学校教育ビジョンで学校運営を行っていくことに了解を得た。

### < 委員会が出された主な意見 >

- ・学力向上は学校のテーマであり、日常的学び、自発的な学びを作ることが課題となっている。学力向上に家庭の力が必要であるのは明白でありながら、保護者の意識は学校に期待するところであり、まだまだ協力体制を高めていかないと学習習慣の確立にならない。
- ・子どもたちの日常の生活を注視したり、学習の支援をすることはとてもエネルギーのいることだが、その中で教職員の満足度の向上は大変喜ばしいことである。
- ・最近の若者の傾向として、道徳心や一般常識が足りなくなっている、異常な犯罪が増えていることなどが出され、亀山中学校の生徒は正しく大人へと成長して欲しい。
- ・生徒の地域活動への参加は、各地区によって状況が違う。中学生が参加してくれる姿は頼もしいが、親世代の考え方は違いが見られ、中には地域活動への参加を望んでいないかと思われるような消極的な姿勢も感じられている。